



青葉の笛だより

第51号

令和8年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

蓮の花の咲く季節になりました。須磨寺でもなんとか咲かせたいと思っているのですが、なかなか咲かせることが出来ません。咲かせ方をご存知の方がおられましたら、ぜひご教導をお願いします。

さて、古来インドではこの蓮の花を重んじてきました。仏教經典にも蓮華の花のことが良く出てきますし、仏・菩薩は蓮華の上に座っておられます。殊に密教では胎藏界曼荼羅の象徴とされ、その中央には蓮をかたどった中台八葉院を置くなど、特に重要視されています。

私たちの心の故郷ともいえる高野山も、その周りを取り囲む山々が蓮の花弁のように広がっているの、それらの山々は内八葉・外八葉と呼ばれ親しまれています。

なぜこのように蓮の花は仏教では大事にされるのでしょうか。もう何度もお聞きになった方もおられるでしょうが、蓮の生態や特徴を人間の理想的な生き方や、仏の教えに例えられた「蓮の三徳」というものを紹介します。

まず初めに「汚泥不染の徳」です。蓮は綺麗な水でなく泥水の中で育ちますが、泥に染まることなく、清らかで美しい花を咲かせます。煩惱や困難ばかりの世の中であっても、その泥に染まらず、

自分を見失うことなく清らかに生きることの尊さを教えてくれています。

次に「花果同時の徳」です。蓮は花が咲くと同時に果実を实らせています。仏への道を志した瞬間に仏になる、仏の心はそこにあるという、即身成仏の象徴とされています。

そして「種子不失の徳」です。昭和二十六年、千葉県で発掘された縄文・弥生時代の地層から出土した二千年前の蓮の種を、大賀一郎博士が翌年に発芽・開花させたことから、蓮の種は生命力が強く、何千年経っても枯れずに、条件が揃えば必ず発芽するという、人の心の中にある「仏心の種」は決して失われることはないという、永遠の慈悲と希望を表しています。

また、この三徳のほかにも、仏教における自分の存在の尊さや、ぶれない心理の姿を意味する、一本の茎に必ず一つの花を咲かせる「一茎一花の徳」。多くの人に教えを広めて功徳を分かち合う、慈悲を象徴する「一花多果の徳」。謙虚な心(中空)を持ちつつ、決して曲がらない正しい行い(外直)を保つ生き方を意味する、茎の中が空洞でありながら、外側は真っ直ぐに伸びている「中虚外直の徳」も含めて、「蓮の五徳」として紹介されることもあるようです。

このように蓮の花は、仏教における理想の生き方を示すシンボルとして大切にされています。斜に構えず、蓮の花の徳を心に生きていきましよう。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

阿字観

須磨寺正覚院 任職 朝倉経義



阿字観とは真言密教の經典にある大日經に基づく瞑想法でその名の通り阿の字を觀想しながら瞑想します。

この阿とは

大日如来を表す梵字であり、この宇宙にある全ての物質はこの阿字に集約されていると言ってもいいでしょう。

瞑想法と言え

禪宗の座禪を思い浮かべる人も多いですが、阿字観と座禪で言えば方向性による違いがあります。座禪は煩惱を消し去って全てを無にする事を目的としますが、阿字観は無を体得した後に阿字の仏様の心を感じとる事を目的とします。座禪は無になる為に周囲に何も配置しません。阿字観は仏様と一体になるために阿の字と月が描かれたお軸を御本尊とします。一言でまとめると座禪は「全てを否定して空っぽになる」それに対して、阿字観は「全てを肯定して受け入れる」という方向性を持っているという事になります。

阿字観の教えの基となった大日經の中に「如実知自心」という言葉があります。この言葉の意味はありのままの自心の心を知る。ありのままとは、自分の心の中にある仏性、すなわち仏様の心、その心

に気づく方法が阿字観瞑想だと思っています。

又、今の日本ではあまり認知されておられません。阿字観とヨガとは密接な関係があり、日本のヨガはお大師様が瑜伽（ゆが）として広めた事がキッカケとされています。それゆえ呼吸を重要視しており、数をかぞえながら呼吸する「数息観」阿の字を唱えながら呼吸する「阿息観」、満月を心の中に感じながら呼吸する「月輪観」という三段階の瞑想法を経て、ようやく「阿字観」へと辿り着く事ができます。

まず、阿字の御本尊様に五体投地の三礼をします。五体投地は仏様に帰依する作法で合掌したまま立って、右膝、左膝、右肘、左肘、額の順番で床に付け最後に両手の五本指をあげて仏様の御足を頂戴します。三回、繰り返します。

次、合掌して般若心經をお唱えします。

(一回)

次、御本尊大日如来御真言（おんあびらうんけんばざらだどばん）三回お唱えします。

次、自心の中にある仏様の心をおこす発菩提心真言（おんぼうじしつたばだはだやみ）三回お唱えします。

次、自心が仏様と一体となる三昧耶戒真言（おんさんまやさとばん）三回お唱えします。

それでは、瞑想の説明に入っていきますが、阿字観にたどりつくまで少々時間がかかりますので阿字観の基礎となる阿息観の説明をしていきたいと思います。

密教瞑想法は三つの要素から構成されており、

一番目は調身と言って身体を調える事によって心を調える、二番目は調息と言って呼吸を調える事によって心を調える、三番目は調心と言って心を調える。身体と呼吸と心の三つを調える。昔の人は身

体の動きと呼吸の動きが心と密接に関係していると言った様に考えていたわけですね。

調身

「着座して半伽座で座る（右足、左足、おしりの三点を下につける）」「手はへその少し下（丹田）に伸ばした左手のひらに右手を重ね、法界定印を結ぶ」「体を前後左右に揺すって背筋を伸ばし一本の軸をつくり体を安定さし肩の力を抜いてゆつたりと座る」「目は半眼にして50センチ前の斜め下に視線を落とす」

調息

まずは口からゆつくりと息を吐きだし、口から吐いた息の分だけ鼻からゆつくり吸います。吐く息は自分の中にある悪い心、不浄な心を出す事に意識を集中させます。吸う息はここにある仏様の気を感じながら清浄な気を自分の中に取り入れる事に意識を集中させます。他の事は全く考えず、今している呼吸だけに意識を集中していきます。この動作を繰り返す事に依って身体の中が仏様の清浄な気で満たされ浄化されていきます。

調心

心を調えます。目の前にある阿字を見つめ、自分の中にある仏様の心、阿字を見つけ観じていきます。口を少し開きアーと声を出し、その声を少しずつ小さくしていきます。最後は声なきアとなり、口を閉じて、心の中でアを観じ続けます。

瞑想から元の状態に戻る、定から出る事、これを出定といいます。ゆつくりと目を開き手の印をほどいたら両手の手のひらで頭の上から足先へ直接触れずになでるおろすようにして、呼吸や血液循環を正常に戻します。最後は胸の前で合掌して、いま、自分が生かされている事に感謝の心をもって御本尊様に一礼し阿字観瞑想を終了します。

櫻壽院春のバス旅行

五月二十五日。裸祭りで有名な岡山・西大寺観音院様へ日帰りバス旅行の団体参拝に参りました。

お寺ではご住職様に案内頂き西大寺の縁起、名前とサイの角（犀角、犀戴寺）、裸祭りなどのお話を聞き本堂の中へ。ご本尊千手観音様にお勤めの後、裸祭りの牛玉札の投下する所などを案内して頂きました。また牛玉所殿を参拝、牛玉大権現、金毘羅山の秘仏でもある金毘羅大権現を御開帳して頂き、とてもありがたいお参りができました。

昼からは日生で楽しく昼食でお腹一杯になりました。午後は赤穂観光、大石神社を参拝致しました。当日は日傘が欲しいほどお天気に恵まれ皆様と共に楽しくお参り出来た事に感謝申しあげます。

秋には高野山へ団体参拝致します。今回は十月十二日（月・祝）。スポーツの日に参ります。いつも通り奥之院参拝、上池院で回向、昼食に加え、金剛峯寺へ参拝予定です。

ぜひお誘いあわせのうえご参加くださいませ。



櫻壽院秋のバス旅行

「高野山団体参拝」

日程：令和八年十月十二日（祝日・月曜）

詳細は櫻壽院にお聞き下さい。

須磨寺 春季大祭 のんのんまつり



稚児お加持



十三参り



行道



十三参り



大法要



ご詠歌



人形供養



絃須磨



お香づくり



境内のにぎわい



法話

去る四月五日(日)に、須磨寺春季大祭、のんのんまつりを盛大に奉修いたしました。「のんのんまつり」は、仏尊・観音尊を示す幼児語「のんのんさま」に由来、子どもからお年寄りまで仏教に親しみを感ずる機会にしたいとの思いから名づけられました。

午前中は、書院にて、十三参りを厳修いたしました。十三参りとは、かぞえ年の十三歳に、虚空蔵菩薩より智慧を授かる儀式です。多くの子どもたちが、法要に参加しました。お昼からは、本堂での本尊慶讃法要をはじめ、法話、一絃須磨琴保存会による一絃須磨琴の奉納演奏、須磨寺御詠歌講による御詠歌の奉納が行われました。

境内では、念珠、塗香、ろうそくの製作体験、仏具販売などの特別ブースが設けられ、塔頭正覚院においての阿字観瞑想体験、塔頭蓮生院においての写経写仏体験、塔頭櫻壽院においての「あなただけの散華守り」、キッチンカーの出店など多様なイベントが開催され、いずれも大勢の参拝者の方で賑わいました。

お参りくださいました皆様、お支えくださった皆様へ心より御礼申し上げます。

来年も四月四日(日)に開催予定です。是非、ご参拝ください。

四萬六千日燈明会

ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。

須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形づくられた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。その後、本堂前において和太鼓の奉納演奏などの催しもございます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。

一、日 時 八月九日（日） 午後六時より
一、会 場 須磨寺本堂前
一、ご供養・ご祈禱料 ろうそく 一本 千円也
祈禱札 一本 三千円也
経木供養 一霊 三千円也

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日（日） 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂
- 十一日（火・祝） 十五（土） 孟蘭盆会
- 十五日（土） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
- 十七日（月） 青葉殿孟蘭盆会法要 〈午前九時・正午・午後三時〉 青葉殿
- 十九日（水） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
- 二十日（木） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
- 二十日（木） 二十一日（金） 盆大師（ご縁日）
- 二十三日（日） 地藏盆 お菓子のお接待 〈午後三時〉 境内各所

◆ 九月

- 五日（土） 三者三様の法話会 〈午後一時〉 青葉殿
- 二十日（日） 二十六（土） 彼岸会 特別護摩祈禱 〈午前十時・午後二時〉 護摩堂
- 二十日（日） 二十一日（月・祝） 彼岸大師（ご縁日）

◆ 十月

- 十日（土） 絵本テラピー 〈午後二時〜午後四時〉 青葉殿
- 十二日（月・祝） 須磨 夜音 音楽法要祭 〈午後六時〉 境内
- 二十日（火） 二十一日（水） 大師縁日
- 二十五日（日） 須磨ゆかりの芸術祭 〈午後二時〜午後四時〉 青葉殿

◆ 十一月

- 八日（日） 須磨ゆかりの芸術祭 〈午後二時〜午後四時〉 青葉殿
- 二十日（金） 二十一日（土） 大師縁日
- 二十三日（月・祝） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 〈午前十一時〉 須磨寺境内

お寺で学ぶ周活知恵袋

真言宗須磨寺派潮音寺 住職 中山 戒仁

周活(終活)の第一歩

何から始めれば
いいの?!

1 やりたいことリスト

「周活(終活)を始めようと思うんですが」という方はだいたい、「何からすればいいかわからない」と言われます。確かにテレビや新聞、書籍等で情報があふれて頭の中で渋滞する状況なので仕方がないと思います。そこでまず、周活を考え始めた時には持ち歩きのできるA5サイズくらいのノートと書きやすいボールペンを購入して常に持ち歩くようにして下さい。そして①これからやってみたいこと、②不安・心配に持っていること、③家族・パートナー・知人友人等への想いやお願ひしたいこと等を書き出して見て下さい。スマホやタブレットを使いこなせる方はスマホ等のメモでもいいと思います。とにかく思いついたらすぐ書けるようにしておくことが大切です。「あつ」と思つて「帰ったら書く」とではついつい忘れてしまつて思ひ出せないことになってしまいます。内容については実現出来そうか否かは関係ありません。まず自分の想いや不安なこと等の頭や心の中にあるものをすべて書き出して見える化するに大きな意味があります。

2 周活のキーワードは「自力」「他力」「感謝」

周活を始めるためになぜメモ書きが必要なのか?そもそも周活のみならず、仕事でも日常生活においても漠然とした問題や将来のことが気がかりで不安になったり、眠れなくなったりした経験をした方は少なくないと思います(そう言う私もよくあるのですが)。そんな不安などを明確にすること、で既に解決していたり、どうでもいいことだったりすることも少なくなく、解決する方法が見つかったりすることもあります。逆にもうどうにもならないことも出てくると思います。その時はすっきり諦める努力をしましょう。多少のモヤモヤ

は残るかも知れませんが、そうすることで少しは心が楽になりますし、新たにやってみることに全集中出来るようになるはずですよ。(この作業を何度も繰り返すことは必要だと思います)

一通り書き出したら、やりたいこと、不安なこと、やらなといけないことなどに分類して、取捨選択して優先順位をつけて下さい。これだけでも目的や問題意識、将来の道筋が見えてきちゃうとはすつきりされるのではないのでしょうか。

目的や課題が明確になつてきたら、次は「やりたいことにチャレンジする」「不安や懸念していることを解決する」、この2本柱が周活を成功させるための重要なポイントになります。そのために大切なことは、「自分の努力」「他者のお手伝ひ(智恵と力を借りること)」が必要不可欠であることに気が付きます。自らが動いて勇気をもつて周囲の人にお願ひをする、手助けしてもらつて、そして助けてもらった方々に感謝をすることを忘れない、これが秘訣です。口で言うのは簡単ですがなかなか難しいことです。臆病にならずに小さな一歩でも踏み出せば路は拓けるはずですから頑張つて下さい。

3 『周活三種の神器』

周活を考へるときに私がまず重きを置いているのが、「自身の想いをカタチにすること」です。具体的には、『任意後見契約等』『遺言書』『死後事務委任契約』を有効な書面にすることです。詳しい説明はまた機会があればお話しさせて頂きますが、今回は簡単に説明させて頂きます。

『任意後見契約等』とは、もし認知症や事故・ケガ・病気等で適切な判断や意思表示が出来なくなつた時に身の回りのことや財産の管理などをどのように、誰れにしてもらうかを決めておく契約のことです。

『遺言書』とは、現金・預貯金・有価証券・土地建物等の財産の相続に関することや祭祀承継者を誰にするか等を取り決めて法的効果が生じる書面にすることです。

『死後事務委任契約』とは、葬儀・納骨・遺品整理・相続等に係る諸手続等に関する事務執行について内容や執行者を決めて行つてもらう為の法的効果が生じる契約のことです。

基本的には前述の3通の書面を公正証書にして頂くことが重要だと思います。他にも財産管理契約や信託契約等の色々な方法や制度もありますが、個々の事情に応じて専門家と相談してカスタマイズすることも一つの方法かと思いますが、まずはこれらの書面について調べてどのようなものか知ることから始めてもらえばいいかと思います。そこから、遺言書の効力や要件、相続等の規定や制度、遺留分等の終活の知識を学んで頂ければと思います。

4 『想続』の要はあなた自身

今回のお話は、みなさんおひとりおひとりが意思表示を出来なくなつた時に出来る限り自分の気持ちや想いを伝えるための方法のひとつをお話ししました。認知症になつても、寝たきりになつても、言葉が話せなくなつても、出来る限りそれぞれの意思は最大限尊重されるべきです。しかしひとたび意思表示が出来なくなつたり、旅立つてしまつと法律や制度でがんじがらめになつて、周囲の方々は本人の想いを知つてもそのように物事を進めることが出来なくなります。本人にとつても不本意なことになるでしょうし、大切な人へ想いが通じない、嫌な思ひや余計な負担をかけることにもなりかねません。自身の希望や想いを実現できるように、またお世話になる方へ思ひやりが届くようにして欲しいと思います。(自己決定権はお一人一人の権利であり、大切な人を護るための務めであると思います)

5 周活(終活)は倅せの種まき

周活はご自身が安心して倅せに日々を送るための準備であり、大切な人にご自身が長年積み重ねてきた有形無形の財産を引き継ぐための大切な務めでもあります。それが先々で倅せの花を咲かせるための種まきになります。

また事前に準備することで自身の想いを伝えることができ、旅立ち後の大切な方々の費用・時間・労力の負担を軽減することにもつながります。初めの一歩が本当に重くて大変かと思いますが、思ひ切つて一歩を踏み出して見て下さい。「ああ、良かった」と思つて頂ける日が来ると思ひます。少しでも気がなつた方は難しく考えずにまずは相談されてみて下さい。

須磨寺の歴史〈三十七〉

至宝集結。―これは七月十四日から九月六日まで東京国立博物館で行われる弘法大師生誕千二百五十年記念特別展「空海と真言の名宝」のキャッチコピーですが、この特別展は須磨寺も所属している真言宗各派総大本山会（各山会）の主催となっておりま。真言宗の十八の総大本山から国宝十五件・重要文化財六十件等の名宝計八十八件が展示されるとい、まさに「空海と真言の名宝」という名に相応しい特別展となっています。

須磨寺からはどちらも国指定重要文化財である、鎌倉時代作・十一面観音立像と南北朝時代作・普賢菩薩十羅刹女像の二点が公開され、二十六日（水）十一時～と十四時～には一絃須磨琴の特別演奏が行われます。

ところで、この特別展の主催者としても名を連ねている真言宗各派総大本山会（各山会）ですが、これは須磨寺貫主も出仕している後七日御修法を後世に継承することを目的に昭和三十三年（一九五八）に創設された団体であり、この特別展では後七日御修法も独立した大きな展示テーマ（第二章）として扱われます。

重ねてになりますが、弘法大師生誕千二百五十年記念特別展「空海と真言の名宝」には須磨寺の誇る名宝と一絃須磨琴の演奏が行われますので、ぜひともご観覧頂きたいですが、須磨寺宝物館には、他にも須磨寺参詣曼荼羅や敦盛像など須磨寺を象徴する名宝が展示されておりますので、両方ともご観覧頂き、今年の秋は芸術の秋として有意義にお過ごし下さい。

蓮生院 八月から十月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想ですので、経験のない方でも気軽にご参加いただけます。疲れた心を癒しにお越しください。（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時：八月三十日（日）

九月二十七日（日）

十月三日（土）・二十五日（日）

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時

（受付は三十分前から）

場 所：蓮生院本堂
参加費：写経五百円・瞑想千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

- 写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。
- 数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。
- 当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。
- 諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三一一

令和8年 年忌一覧

一周忌	令和七年亡	二十五回忌	平成十四年亡
三回忌	令和六年亡	二十七回忌	平成十二年亡
七回忌	令和二年亡	三十三回忌	平成六年亡
十三回忌	平成二十六年亡	三十七回忌	平成二年亡
十七回忌	平成二十二年亡	五十回忌	昭和五十二年亡
二十三回忌	平成十六年亡	百回忌	昭和二年亡

仙師逍遙

梅雨の忘れ物のような雨の一日。このところ週末ごとに通院している眼科の帰り道、途中で夕食を済ませたのでいつになく遅い時間になりました。高速神戸で乗り換えた山陽姫路行き特急を、須磨寺駅のひと駅手前の月見山で降りてあとは徒歩。幸い夕刻の強い雨はもう止んでいて、ゆっくり歩いても十分少々、散歩がてらにちょうどいい距離です。

その日は珍しく傘を持って（そんな時は降らない）月見山から須磨寺まで、中間点にあるセブンイレブンを過ぎて、若い樺の並木と綺麗に刈り込まれた久留米ツツジの遊歩道にさしかかったあたり。ふと舗装路の上にある小さな塊に目が止まりました。しゃがみ込んで目を凝らすと、思った通り羽化直前の蟬の幼虫。季節に置いてけぼりにされることの多いこの頃、今年はまだ初蟬の声を耳にしていません。それはいいけれど、この蟬の幼虫は道路脇の植え込みから外れてしまっているから、羽化するための高さにまで登ることが出来ないし、見たところまともに雨に打たれたらしく、つまみ上げた時に脚に微かな動きがあったほかは、ほとんど生命反応が感じられません。そこは夜半にも人や自転車を通るし、犬の散歩道でもありそのままにも出来ず、とりあえず植え込みのツツジの枝に留まらせようと試みましたが、もはや掴まる力はないさそうで仕方なく根元にそっと離しまし

た。もし元氣になってツツジの幹を登ることが出来れば羽化もできます。

「がんばって」

と、音のしないドアをノックするような、ちからのない応援を残してその場を離れた。

けれど十メートルも歩かないうちに顔にポツリと大粒の雨。そう言えば少し前、夜間に豪雨予報が出ていると、携帯で目にしたことを思い出しました。

あのツツジでは雨除けにはならない。頭の中で可哀想にと豆電球が点いて、そのあと三步目くらいには、昔、運動会の整列行進で号令と共にしたきれいな回れ右。もどつてみると、幼虫は何年も過ぎた地中の世界のように暗いツツジの根元の、同じところに同じ形のまますこにいました。

本降りになった雨に、開いた傘を首と肩で挟んで、右手の指でつまんだ蟬を左の掌に乗せてみてもやはりピクリとも動かないし、気のせいか冷たくなったような感じがします。ここに至ってはせめて小さな命に残されたこの世の時間を、雨に打たれないで済むようにと、足早に須磨寺駅の踏切を渡り、七夕祭りの飾りが頭上に重そうに垂れる深夜の商店街を歩きました。

さてどこに離れたら良いだろう、もう須磨寺山門が見える交差点まで来た時、ふとこれ以上ないくらいふわりと握った左の拳の中で、微かな動きがありました。手のぬくみで蘇生するなんてことがあるのでしょうか。指や手窪を引っ掻く力が思いなしに微妙に強くなってきました。

工房に着き、大雨にも濡れない屋根のあ

るところを探して結局、玄関脇に置かれている大きな水瓶（かつてはハスの花が咲いていた）の中の単なる草むら（緑が綺麗だから敢えてそのままにしている）に託して、セイタカアワダチソウの葉の上にとまらせようとしたのですが、やはり体を支えるだけの力はなく、仕方なく草の根元にそっと置きました。

少なくとも雨に濡れることはない、それが私だけではなく蟬にも救いになるように、玄関の扉を閉めました。

翌朝はご縁のある学芸員さんからのご依頼で、神戸市立博物館に特別展示されることになった転法輪寺様の四天王様（神戸市指定有形文化財）の搬入に、工房全員で立ち会ってお約束があり、出かける用意をしていた時に出勤してきた截金師の藤本禮慈からメールが届きました。

「玄関に蟬がいます」のメッセージと共に瓶の中を撮った写真が二枚。

これはまごうことなく昨夜の蟬。あれから体力が戻って羽化できたとは、これはこれは嬉しい驚き。ただ写真で見ると蟬の位置が低いので、果たして飛びたてるのか



どうか、出発の声に急かされ階下に降りて、かいつまんで昨夜の顛末を説明すると

「もう飛び立ったみたいですよ。短い鳴き声を一度は聴きました」

と、これまた驚き。結局私が目にするものが出来たのは抜け殻だけでした。

「よかったですね。蟬はきつと有難うと言っていますよ」

の言葉にも、寧ろ有難うと言うべきは私の方で、何気ない行動が生んだ小さな奇跡に立ち会うことが出来て、とてもいい気分です。転法輪寺様に到着。美術輸送の方々の流石の梱包に立ち会い、四天王様は何事もなくご出発されました。

「ありがとう」の言葉は口にした途端、誰よりも真っ先に自分の耳に入ってきた。そして、そのたび、自分の中にある「ありがとう」の受け皿が少しずつ大きくなっていくような気がします。

転法輪寺様の境内の大きな蓮の花が、とても幸せそうに季節を歌っていました。

須磨寺大仙師 山高龍雲

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧かしようさんまいともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を祓い福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日(月・祝)

午前十一時開白

一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご祈禱 特別祈禱札

一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火渡り 厄年特別火渡り 五千元

一般火渡り 二千元(先着百五十名)



※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。

申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

令和九年 厄年表

平成二十一年生(女性) 厄年	平成 十五年生(男性) 小厄
平成 八 年生(女性) 前厄	昭和六十二年生(男性) 前厄
平成 七 年生(女性) 本厄	昭和六十一年生(男性) 本厄
平成 六 年生(女性) 後厄	昭和六十年生(男性) 後厄
平成 三 年生(女性) 厄年	昭和四十二年生(男性) 厄年
昭和四十二年生(女性) 厄年	

須磨寺 地蔵盆

今年も、須磨寺境内、4か所(親子地蔵、櫻壽院、蓮生院、正覚院)にて、地蔵盆を行います。地蔵盆とは、子どもたちの無病息災を願う、子どもが主役のおまつりです。お地蔵さまに、お菓子を供奉えし、お参りに来られた子どもたちに、お菓子をお渡しします。いつも見守ってくださるお地蔵さまに感謝をしに、お参りにお越しください。



記

一、日時 八月二十三日

(日曜日)午後三時より

一、会場

須磨寺境内4か所

(親子地蔵、櫻壽院、

蓮生院、正覚院)

※お菓子は、先着順で、無くなり次第終了となります。

※同日、須磨寺駅、頼政薬師寺でも、それぞれ地蔵盆まつりが行われます。そちらも是非ご参拝ください。

